

**IMO/ILO/UNECE 貨物輸送ユニットの収納のための  
行動規範 (Code of Practice for Packing of  
Cargo Transport Units)**

(仮訳)

2014年1月

## 5.2 フレキシタンクの液体

- 5.2.1 バルク液体の道路、鉄道、または海上輸送に使われるフレキシタンクには、公認の諮問機関による型式承認を確認するラベルを表示すること。フレキシタンクの製造業者による取付けの指示には常に従い、運搬する予定の貨物はフレキシタンクの材質との相性に問題なきことを確認すること。フレキシタンクでの危険物の輸送は禁止されている。
- 5.2.2 輸送中、フレキシタンクの内容物は、摩擦による大きな保持力なく動力に晒されることになる。これらの力はCTUの壁に作用し、損傷または完全故障の原因となり得る。
- 5.2.3 したがって、CTUの有効荷重は、貨物を積んだフレキシタンクの運搬に使用する際には適切に低減されるべきである。低減の度合いはCTUの種類や輸送モードによって変わる。フレキシタンクが汎用CTUに積載されている場合、CTUを膨張による損傷から守るため、フレキシタンクの液体の重量はCTU所有者と合意した値を超えてはならない（図7.50を参照）。

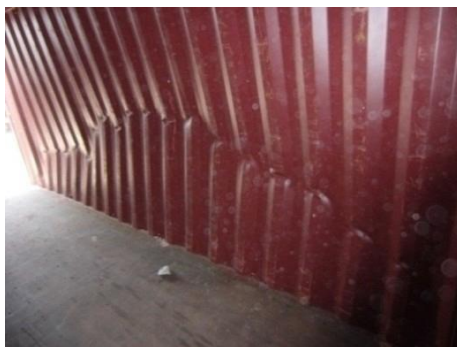


図 7.50 損傷を受けたCTUの側壁

- 5.2.4 貨物を積んだフレキシタンクを運搬する予定の道路車両は、認められる荷重想定下で貨物の重量を保持するのに十分な認定強度のある収納壁であること。車両の調整に関する認証は、ゼロ摩擦の想定下における液体のバルク輸送について明示的に対応すること。とはいえ、積載エリアの底のライニングに摩擦増加材を取付け、2メートルごとに過度の繊維ラッシングを適用することが、フレキシタンクの位置と強度を安定させるために推奨される。
- 5.2.5 フレキシタンクを取付ける前に、CTUの構造保全と各ドアパネルのかんぬきが完全に機能しているかについて慎重に検査すること。CTUはその後に清掃しながら突出した釘などすべての障害物を取り除き、段ボールで底と壁を覆って準備を行うこと。40フィートコンテナには、膨張による損傷を避けるため側壁の覆いに合板を使用すること。CTUの扉側の端には小角材を適切な間隔で取付け、さらに丈夫な段ボールまたは合板で覆って強度を上げること。フレキシタンクの底に連結チューブが備わっている場合、この覆いは右手の扉付近にチューブが位置し開口部が揃うようにすること。空のフレキシタンクは円滑な充てんプロセスを助けるために、折りたたまず隅々まで平たく広げておくこと。

- 5.2.6 空のフレキシタンクを充てんする際には CTU の左手の扉はしっかりと締めておき、挿入した障壁が適切にタンクを支えているようにすること（図 7.51 を参照）。フレキシタンクは制御された速度で充てんされるものとする。回収袋やドリフトレーなど、こぼれを保護する器具の使用を推奨する。充てんしたタンクを密封した後、CTU の扉を閉じて左手の扉に警告ラベルを貼り付けること（図 7.52 参照）。フレキシタンク、保定用小角材、または仕切りのどの部位についても、積載が完了した時点で扉に触れてはならない。



図 7.51 フレキシタンクを取り付けたコンテナ



図 7.52 フレキシタンクの警告ラベル

- 5.2.7 フレキシタンクを荷下ろす際には、CTU の右手の扉を慎重に開き、フレキシタンクの上部または底部にある連結チューブをとり出すこと。左手の扉は、フレキシタンクが実質的に空になるまで閉じたままにしておくこと。回収袋やドリフトレーなど、こぼれを保護する器具の使用を推奨する。空のフレキシタンクは適用可能な規則に従って廃棄すること。